

第32回イオン環境活動助成 活動報告書（上期）

報告対象期間：2023年4月1日～2023年9月30日

団体名	NPO 法人田縁プロジェクト
活動タイトル	「まち」と「むら」が支え合い里山を次世代につなぐプロジェクト
活動地域	福岡県糸島市瑞梅寺



5月14日 サツマイモの苗植え

【活動の目的・目標】

里山の棚田で米作りや野菜作りなどに参加する機会を増やすことで、農的ライフスタイルを目指す市民を育てると同時に、里山に「賑わい」を取り戻すため、下記の5点を重点的に目指す。

- ①農作業の効率化を図る
- ②会員が農作業に参加しやすい環境を作る
- ③お米や野菜の収穫量を安定させる
- ④里山の魅力を増やす
- ⑤梅を活用する暮らしを提案する



6月11日 田植え(山田錦)

【今回の活動で苦勞した/工夫したこと】

年々イノシシが増えているようで、金網の外に電気柵まで設置しているのに、電池切れや漏電のすきについて、イノシシの侵入が後を絶たない。

その中で、昨年助成金で購入したソーラー式の電気発生器は、電池切れもなく、イノシシの侵入に効果を発揮している。そこで、ソーラー式の蓄電池を2つ購入して、既存の電気発生器に使い、今のところ効果を発揮している。



9月23日 稲刈り(つくしろまん)

【活動の内容・成果】

開催回数：65日(4月～8月)

参加人数：1093人(大人:962、子ども:131)

達成率：100%

糸島市瑞梅寺地区で高齢化などにより耕作できなくなった棚田41枚を請け負い、市民に募集した「米づくりサポーター」の力を借りて有機栽培の米作り等をしながら、この地区の美しい棚田や自然環境を守る取組みを行っている。

上期は、主に下記の活動を行った。

- (4月) 石垣の草取り、レンゲのない田んぼへ米ぬか撒き、畦の補修、畔の草刈り、田んぼの耕耘、水路整備、種もみの温湯消毒
- (5月) 稲の種まき、苗箱の据え付け、サツマイモ苗植え、レンゲ田の耕耘、畦の草刈、畦塗り
- (6月) 田面の高低直し、代かき、田植え、田の草押し、田の草取り、梅ちぎり、春ジャガ掘り
- (7月) 大豆の種まき、田の草押し、田の草取り、稲の追肥、サツマイモ畑の草取り、畦の草刈
- (8月) 大豆の中耕・土寄せ、サツマイモ畑の草取り、畦の草刈、野菜畑の草刈
- (9月) 竹取り、竹組み、稲刈り、掛け干し

【団体概要】

「まち」の人々が小さな農家となって棚田を守ることは、里山を支えると同時に、収穫したお米や大豆で自らの暮らしも支えます。また、体験会等を通して里山の伝統文化も学び、次代へ伝えることもできます。私たちは「田んぼの縁」で「まち」と「むら」をつなぐ活動を始めて今年で20年目になります。2023年は、会員158世帯で41枚の棚田を守っています。

第32回イオン環境活動助成 活動報告書（上期）

報告対象期間：2023年4月1日～2023年9月30日

こちらに、1ページ目の以外の活動写真を添付し、右側に説明をご記入下さい。



4月8日 米ぬか撒き

1年おきにレンゲの種を蒔いているため、レンゲのない田んぼには、耕耘する前に米ぬかを10アール当り100キロ撒いて米作りの元肥にします。たくさん撒くので、みんな米ぬかを浴びて真っ白に！



5月4日 苗箱の据え付け

前日に水稻種子の種まきを行った苗箱800枚を田んぼの苗床に据え付ける作業。たくさんの会員が参加してくれるので、1枚ずつバケツリレーで苗床の奥まできれいに並べます。



6月18日 梅ちぎり

昨年から管理を任された梅林で、参加者を募集して梅ちぎり。まだせん定が十分でなく、やや梅が少なかったが、それでも助成金で購入した高枝ばさみや脚立が活躍して、樹上の方の梅まで収穫できました。



7月16日 大豆の種まき

今年は梅雨が長引いて、なかなか畑が耕耘できなかったため、予定よりも2週間遅れで大豆の種まきを行いました。植穴を開ける人、種を3粒ずつ蒔く人、覆土をして鎮圧する人、乾燥防止にもみ殻を被せる人、と手分けをしながら作業。11月に収穫して、来年1月の味噌づくりに利用する予定です。